

感じたことを振り返る学び

社会福祉学部社会福祉学科2年 永田雄基

活動先：愛光園知多障害者生活支援センター らいふ

ゼミ：松下 典子 先生

私は松下ゼミで一年間サービ斯拉ーニング活動を行ってきた。二年に進学するまでサービ斯拉ーニングはただの施設体験プログラムだと思っていた。しかし、サービ斯拉ーニングの活動・報告を終えサービ斯拉ーニングに対する考え方が大きく変わった。

4月～7月にかけてはサービ斯拉ーニング先の決定とサービ斯拉ーニングの準備を行った。私が行かせていただいた施設は障害児の放課後デイサービスを行っている『らいふ』で活動をさせていただいた。活動先が障害児の放課後デイサービスということで事前に『らいふ』の事業内容を調べたり『らいふ』に来る利用者さんの障害の種別・度合などを調べて事前学習を行った。私は以前から障害を持った方々とかかわる機会があり障害を持っている子どもたちの考え方や生活などに興味があり『らいふ』を活動先に選択した。『らいふ』では子どもたちのやりたいことをなるべくさせてあげたいという理念で活動を行っている。私が活動を行っている時も細かく指示はださずに子どもたちのやりたいことを見守ったり一緒に遊んだりして活動を行っていた。子どもによって遊び方にもいろいろあり一日中ゲームをしている子もいれば、音楽に合わせて踊る子もいて“人それぞれなんだな”と感じた。『らいふ』で活動をしていて子どもたちが自分の思ったことをやっていて自由に過ごしていてこんなにゆったりと落ち着いた空間があることに驚きました。『らいふ』独特のあのゆったりと落ち着く空間を感じることができたことは今後の私の将来に響くと思った。あの空間をつくっているのは利用者さんやスタッフさんだけではなく私たちサービ斯拉ーニングやボランティアさんが絶え間なく通い続けて何年もかけて作り上げたものだと思う。あの空間ではいろいろなできごとが利用者さんとスタッフや『らいふ』に関わる人たちの間で起こってきているということを感じました。活動を通して安心して生活ができる居場作りがとても大切なことなんだと感じました。自分がずっとここにいたいと思えるような場所、ここなら安心していけるという場所があればどんなにうれしいことかということを感じた。

活動中は朝10時ごろに『らいふ』に行き子どもたちがやってくるのでひとりひとり子どもたちにつきます。まず、ひとりひとり違った課題が毎日与えられるのでその課題を子どもたちにやってもらう。課題を終えてから自由時間がスタートする。夏休みの期間は水遊びのプログラムが組み込まれている。しかし、水遊びの時間はとくには決まっていなく長く入っていたい子は長く入っていていいし、入りたくない子は入らなくていいということになっている。そして昼食を終えて午後の自由時間になる。自由時間は子供たちが各々好きなことをしてあそんで過ごす。自由時間が終わったらおやつ作りや買

い物の時間がある。この時も参加したい人は参加して参加したくない人は参加しなくてもいい決まりになっている。この自由さがこの『らいふ』のいいところであり特徴でもある。

サービ斯拉ーニングは準備から報告まで大変なことがたくさんあった。事前準備の段階では『らいふ』のサービ斯拉ーニングの担当の方と何回か打ち合わせをし、私たちにどんなことができるのか、どんなことをしてほしいのかを聞いたりした。サービ斯拉ーニングの活動以前に『らいふ』に行かせていただき実際に体験もさせていただいた。最終日の企画はほとんど前日に決めたのですが利用者さんやスタッフさんにも喜んでもらえたのでうれしかった。私は六日間毎日違った子どもについていました。その子供たちは年齢も違って性別も違って、もちろん考え方も違う。同じことをしていて楽しいと感じる子もいれば面白くないと言って部屋を出て行ってしまう子もいる。でも私はそれでいいと思う。障害を持っているからと言って縛られる生活を送り続けることはない。自由に自分のやりたいようにやればいいと思う。その自由にやりたいことのできる空間を持っているのが『らいふ』であると思った。

サービ斯拉ーニングを終えて活動中感じたことや思ったことを振り返る機会を多く持つことができました。『らいふ』の方が活動を終えての感想を聞きに来てくださったり、活動で思っていたことの相談などもした。最後にはサービ斯拉ーニングの活動報告会も聞きに来てくださった。活動中だけではなく活動が始まる前や活動の終わった後にまで協力していただき本当に感謝している。サービ斯拉ーニングを終えて活動先に感謝すると同時に知多半島のNPOの力強さをひしひしと感じることができました。松下先生がいつも授業中におっしゃっている知多半島のNPOの強さを知ることができた活動となりました。何も無いところからその場所に必要なニーズや課題を拾ってそれにあった適切なサービスを選び適用させていくことを行ってきたNPOがいかにすごいかを活動に入って知った。他のサービ斯拉ーニングの活動先の活動内容を聞いていると自分の活動先の活動に足りなかったものや、こういう活動をしてみたかったなと思うものが多数出てきた。報告会を聞いていても、自分の体験をうまくまとめる報告を聞いたり見て「こういうまとめ方をすれば人にわかりやすく伝えることができるんだな」と思った。

自分の体験を自分だけのものにせず他人に伝えることも活動の一環だと思う。それだけではなく他人が感じたことも自分で感じたことのように吸収することも大事なことでと思う。

6日間という短い時間でしたが、サービ斯拉ーニングの活動を通してとてもいい経験を得ることができました。このサービ斯拉ーニングで得た経験を生かすも殺すも僕の腕次第である。大きな経験を得たのでこれからの何かの役には立てたい。障害を持った子どもとかかわることができて、いつもとは違った刺激を得ることができました。『らいふ』じゃないと感じることのできないことが当然あったと思う。その感じたことを大切に振り返りながら今後の人生を歩んでいけたらいいなと思う。